

## 「イスラエルを愛する」

2016年5月3日 カルバリーチャペル・ジャパン・カンファレンス

### 1A 祝福の約束

1B アブラハムの生涯

2B 出エジプトにおいて

3B 遊女ラハブの姿勢

4B 会堂を建てる百人隊長

### 2A 神の選び

1B 神の憐れみによる選び

2B キリストにある選び

3B オリーブの木への接ぎ木

### 3A 聖書預言

1B 神の計画の全体

2B 現代イスラエルにおける成就

### 4A 杉原千畝(Sempo Sugihara)

## 本文

キリスト者が、「イスラエルを愛する」ということについて、まず、このことがカルバリーチャペルの特徴の一つになっています。チャック・スミスが2013年10月3日に天に召され、その後の追悼式に参列し、スピーチをした人たちに、在米イスラエル領事(Consulate)がいました。彼はイスラエルをダビデになぞらえて、チャック・スミスのことを「ヨナタン」に例えていました。ヨナタンはダビデを愛して、ダビデを支え、寄り添い(come alongside)しましたが、同じように牧者チャックはイスラエルを愛し、イスラエルに寄り添いました。<sup>1</sup>

### 1A 祝福の約束

なぜイスラエルを愛し、具体的にも愛を示していったのか？あるインタビューに答えている言葉があります。カルバリーチャペルは、聖書を初めから終わりまで、順番に読みます。そのことによって、神のご計画全体を知りたいと願っています。その時に、神ご自身がイスラエルを愛しておられることを知るからです。

### 1B アブラハムの生涯

イスラエルを愛し、祝福することについて、最も基本となる約束が創世記12章3節にあります。「あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民

---

<sup>1</sup> <https://www.facebook.com/PastorChuckSmith/videos/vb.560824020655583/10201486257491813/>

族は、あなたによって祝福される。」アブラハム、またその子孫を祝福する者は、祝福を受けます。そうではなく呪う者は呪いを受けます。この約束が、その後の聖書の話に一貫して出てきます。

## 2B 出エジプトにおいて

主は、ヤコブの家族をエジプトに下らせ、エジプトでその子孫を増やしました。そして、エジプトの王パロは、イスラエル人が強くなって来るのを見て、彼らを奴隷にして、酷く取り扱いました。ところが、苦しめれば苦しめるほど、彼らはますます増え広がったのです(出エジプト 1:12)。そこで、次の話があります。

### 出エジプト記 1:15-21

また、エジプトの王は、ヘブル人の助産婦たちに言った。そのひとりの名はシフラ、もうひとりの名はプアであった。彼は言った。「ヘブル人の女に分娩させるとき、産み台の上を見て、もしも男の子なら、それを殺さなければならない。女の子なら、生かしておくのだ。」しかし、助産婦たちは神を恐れ、エジプトの王が命じたとおりにせず、男の子を生かしておいた。そこで、エジプトの王はその助産婦たちを呼び寄せて言った。「なぜこのようなことをして、男の子を生かしておいたのか。」助産婦たちはパロに答えた。「ヘブル人の女はエジプト人の女と違って活力があるので、助産婦が行く前に産んでしまうのです。」神はこの助産婦たちによくしてくださった。それで、イスラエルの民はふえ、非常に強くなった。助産婦たちは神を恐れたので、神は彼女たちの家を栄えさせた。

主がイスラエルを祝福されると、このように反対する勢力が出てきます。その時に、それでもイスラエルの側に立つ(stand with Israel)、その勇気を示したのが、助産婦たちです。彼女たちは、神を恐れたので、イスラエルの側に立ちました。そして、主は彼女たちに良くしていただきました。

そして、イスラエルを呪う者が呪われるという約束も、成就しています。その後パロは、男の子はすべてナイル川に投げ込まなければいけないと命じました。そして、紅海が分かれた時のことを思い出してください。エジプト人は、海の中でおぼれ死にました。イスラエル人を水に沈めるということをしたので、自分たちも水に沈められたのです。

## 3B 遊女ラハブの姿勢

次にヨシュア記を見ましょう。イスラエルの民は約束の地に入ろうとしていました。約束の地に入る前に、ヨシュアは偵察(spies)を送りました。エリコにおいて、遊女ラハブが彼らをかくまいました。このことも、エジプトでの助産婦と同じように、自分の命が危険にさらされるようなことです。けれども、彼女は言いました。

### ヨシュア記 2:8-13

ふたりの人がまだ寝ないうちに、彼女は屋上の彼らのところの上って来て、その人たちに言っ

た。「主がこの地をあなたがたに与えておられること、私たちはあなたがたのことで恐怖に襲われており、この地の住民もみな、あなたがたのことで震えおののいていることを、私は知っています。あなたがたがエジプトから出て来られたとき、主があなたがたの前で、葦の海の水をからされたこと、また、あなたがたがヨルダン川の向こう側にいたエモリ人のふたりの王シホンとオグにされたこと、彼らを聖絶したことを、私たちは聞いているからです。私たちは、それを聞いたとき、あなたがたのために、心がしなえて、もうだれにも、勇気がなくなってしまいました。あなたがたの神、主は、上は天、下は地において神であられるからです。どうか、私あなたがたに真実を尽くしたように、あなたがたもまた私の父の家に真実を尽くすと、今、主にかけて私に誓ってください。そして、私に確かな証拠を下さい。私の父、母、兄弟、姉妹、また、すべて彼らに属する者を生かし、私たちのいのちを死から救い出してください。」

ここで注目していただきたいのは、ラハブがイスラエルの側に立った時に、彼女自身が、主なる神を知ったことです。「あなたがたの神、主は、上は天、下は地において神であられるからです。」と言っています。イスラエルの側に付くことによって、イスラエルの神を個人的に知ることができました。そして、彼女とその家族は神の裁きから救われました。そしてラハブは、イスラエルの中に住み、実に、イエス・キリストの系図の中に入るのです(マタイ 1:5)。

#### 4B 会堂を建てる百人隊長

これは新約時代にも起こります。私たちは有名な、百人隊長の話思い出します。彼のしもべが病気で死にかけていましたが、百人隊長はイエス様からお言葉さえいただければ、僕が直ると言いました。イエス様はその信仰が立派であるとほめ、しもべは直りました。ルカによれば、ユダヤ人たちがこの百人隊長のことを、イエス様に紹介していることが分かります。

ルカ 7:4-5

イエスのもとに来たその人たちは、熱心をお願いして言った。「この人は、あなたにそうしていただく資格のある人です。この人は、私たちの国民を愛し、私たちのために会堂を建ててくれた人です。」

百人隊長は、ユダヤ人を愛して、その会堂を建てるほどでした。そこで、彼はユダヤ人の信じる神を知って、そしてイエス様を信じるに至るのです。

#### 2A 神の選び

このように、彼らを祝福することは、自分が祝福を受けることが分かりました。そして次に、「神の選び」について考えてみましょう。

#### 1B 神の憐れみによる選び

神がなぜ、彼らをご自分の民として選ばれたのか？そのことを見てきたいと思います。

## 申命記 7:7-8

主があなたがたを恋慕って、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの民よりも数が多かったからではない。事実、あなたがたは、すべての国々の民のうちで最も数が少なかった。しかし、主があなたがたを愛されたから、また、あなたがたの先祖たちに誓われた誓いを守られたから、主は、力強い御手をもってあなたがたを連れ出し、奴隷の家から、エジプトの王パロの手からあなたを贖い出された。

ここにあるように、彼らの中に何か愛されるべきものがあったから、愛されたわけではありません。そうではなく、神ご自身がただ彼らを愛されて、それで選ばれました。ここが、「選び」についての根本的な考え方です。聖書における選びは、もっぱら神の憐れみと愛によるものです。

## 2B キリストにある選び

そして、イスラエルに対する神の選びをもって、私たち異邦人もキリストによって神に選ばれました。ここが大事な点であり、イスラエル人への神の愛を見ることによって私たちはキリストにある神の愛を見ることができます。

パウロは、神の選びについてローマ 9-11 章で論じました。ユダヤ人が神に選ばれた民なのに、彼らのメシヤを彼ら自身が拒んだという問題についてです。彼らは、それでは退けられたのか？という問いをしています。「ローマ 11:1 すると、神はご自分の民を退けてしまわれたのですか。絶対にそんなことはありません。」神がイスラエルを選ばれた選びをもって、私たちをキリストにあって選んでおられるのですから、もし彼らが見捨てられているとしたら、私たちも神は途中で放棄することになります。イスラエルが今も、福音を拒んでいたとしてもなおのこと愛し、選んでおられることは、私たちに対するキリストにある神の愛と選びも、それだけ確かだということなのです。

## 3B オリーブの木への接ぎ木

それで、パウロは異邦人キリスト者に対して、「高ぶってはならない」という戒めを与えています。イスラエルを退けて、私たちがアブラハムの祝福につながっているのだという考えは高ぶりであることを示しました。オリーブの木の喩えで、イスラエルというオリーブの木に、私たち異邦人が接ぎ木された(grafted)のだよとパウロは論じています(11:16-22)。

そして、次のように結論づけています。「11:28-29 彼らは、福音によれば、あなたがたのゆえに、神に敵対している者ですが、選びによれば、先祖たちのゆえに、愛されている者なのです。神の賜物と召命とは変わることがありません。」今は、日本人よりもユダヤ人のほうが、イエス様を信じている割合が少ないです。福音に敵対しています。そして、もちろん他の人間と同じように、悪いこともすれば、罪も犯しています。しかし彼らへの愛は変わらず、召命も変わらない。ゆえに、神の心を私たちが持っているならば、私たちも彼らを愛さないではいけないということです。

### **3A 聖書預言**

#### **1B 神の計画の全体**

そして、イスラエルへの愛に関連して、聖書預言の成就ということが関わってきます。チャックは、なぜ聖書預言に情熱を持っているのか尋ねられた時に、「聖書を信じているからです。」と答えました。聖書全体の3割は預言であると言われています。<sup>2</sup>イザヤ書には、神ご自身が、前もって先に起こることを語ることによって自分が神であることを示す、と言われました。そして、イスラエルに起こることを前もって告げることによって、イスラエルがご自分の証人になると言われました。

イザヤ 44:6-8

イスラエルの王である主、これを贖う方、万軍の主はこう仰せられる。「わたしは初めであり、わたしは終わりである。わたしのほかに神はない。わたしが永遠の民を起こしたときから、だが、わたしのように宣言して、これを告げることができたか。これをわたしの前で並べたててみよ。彼らに未来の事、来たるべき事を告げさせてみよ。恐れるな、おののくな。わたしが、もう古くからあなたに聞かせ、告げてきたではないか。あなたがたはわたしの証人。わたしのほかに神があろうか。ほかに岩はない。わたしは知らない。」

#### **2B 現代イスラエルにおける成就**

そして、預言において、イスラエル人は世界に散らされても、主がまた再び集める、捕われている者たちを帰らせる(return the captives free)と言われています。それが前世紀に起こりました。それから、彼らは戻って、国を建てることもエゼキエル書 37 章で預言されています。このようにして、彼らを通して神は、確かにご自身が生きていることを証しておられるのです。

#### **4A 杉原千畝(Sempo Sugihara)**

そして最後に、一人の人を紹介します。皆さんは、「杉原千畝」さんをご存知でしょうか？彼は、第二次世界大戦中、ナチス・ドイツによる迫害から逃げていたユダヤ人難民に、日本を通過させるビザを発給した人です。約六千人の命が助かったのではないかとされています。彼は後に、「東洋のシンドラー(Schindler of the East)」と呼ばれるようになります。彼は、外務省の本省(headquarter)にビザ発給(issue)の許可をかけ合いますが、おりませんでした。しかし彼は、発給を決断します。その理由については、いろいろ言われていますが、一つは彼がロシア正教徒(Orthodox)のクリスチャンであったことがあります。神を恐れていました。そして、もう一つは、彼はとても世界情勢に通じていて、ユダヤ人を敵に回してはいけないということを感じていました。

まさに、かつてのエジプトでの助産婦のような決断をしたのです。私は杉原さんの決断はすばらしいと思いましたが、それ以上に驚いたことがありました。それは戦後のことです。

---

<sup>2</sup> According to "The Encyclopedia of Biblical Prophecy" by J. Barton Payne, there are 1,239 prophecies in the Old Testament and 578 prophecies in the New Testament for a total of 1,817. These prophecies are contained in 8,352 of the Bible's verses. Since there are 31,124 verses in the Bible, the 8,352 verses that contain prophecy constitute 26.8 percent of the Bible's volume.

戦後、彼は外務省のリストラという名の下で、自主退職させられました。その後、自分の息子が死ぬなどの不幸が続き、また職も転々と変えていく生活を続けていました。ところが、その間、なんと28年間、杉原(Sempo)を探していた人々がいました。彼のビザによって生き延びて、今や新しく造られたイスラエルの指導者になった人々がずっと探していたのです。そして彼をイスラエルに招き、イスラエルで最も大きな栄誉賞である、「諸国の民の中の正義の人(Righteous Among the Nations)」を受けました。そして2000年、彼が死んでから14年目、外務省は公式に杉原氏とご家族に謝罪し、彼の名誉を回復しました。

私が驚いたのはここです。他のどの国が、難民を助けたということによって、彼に恩返しをするために世界中を捜し回るのでしょうか？そして、探し当てただけでなく、日本国という一国の方針を変えて栄誉を与えるほどまでになったのです。これはまさに、「わたしは、あなたを祝福する者を祝福する」という、神の言葉の実現です。

イスラエルを祝福することは、自分に孤立を招きます。彼らの側に付くと、彼らが世界から反対を受けているので、自分も一般の人から反対を受けることになります。職場で、また教会の中でさえも反対されるかもしれません。けれども、イスラエルを愛し、エルサレムの平和のために祈り、彼らの救いを祈ることは、神の愛を知ることであり、豊かな祝福を受ける方法であります。